

〔報 告〕

学童期の孫が祖父母に抱く親密性の関連要因

宮地 由紀¹⁾ 泊 祐子²⁾

要 旨

本研究の目的は、学童期にある孫が抱く祖父母の親密性と、祖父・祖母別、祖父母の年齢、孫の性別と居住距離がどのように関連しているのかを明らかにし、高齢者への親密性が生まれる原点を考察することである。研究方法は、自我の形成される時期にある小学4, 5, 6年生202名に構成的な質問紙によるアンケート調査を行い、175名の有効回答を得た。調査項目は、対象の学年、性別、対象からみた父方、祖父母の年齢、居住距離、身近に感じている祖父母、親密性について杉井らの祖父母から受けた世話の程度の9項目である。

以下の結果が得られた。

1. 身近な祖父母については、性別では「祖母」の方が多く、父方、母方別は「母方」の祖父母を選択しており、「女性」の優位性がみられた。
2. 居住距離では、遠居に比べ同居、近居である祖父母を選択しており、居住距離の近さというものから身近さを抱く傾向にあった。
3. 祖父母の性別、年齢、孫の性別と世話の程度の比較では、祖父母の年齢では、「食事の世話をしてくれる」という直接的な世話において70歳代に比べ50歳代の祖父母が有意に高かった。
4. 孫の性別では、女子が男子に比べて「家の中で遊んでもらった」「話し相手になってもらった」という情緒的な世話において有意に高かった。
5. 世話の9項目と祖父母の居住距離との比較では、「贈り物をもたらした」「お小遣いをもたらした」という道具的な世話では、遠居が同居に比べて有意に高く、「家の中であそんでもらった」という情緒的な世話では逆に同居が遠居に比べて有意に高かった。

キーワード：世話の程度、学童期の孫、祖父母、居住距離

1. はじめに

近年、わが国では少子、高齢化に伴い、人口学的な変化によって、三世帯世帯の減少、核家族化という家族形態の変化も見られている。この変化は、家族間の親子関係だけでなく祖父母—孫関係において変化を起していること¹⁾²⁾、二つ目には高齢者と若い世代とのふれ合いを減少させていると考えられる。そ

のために若い世代と高齢者の親密性がどのように形成されていくのかに注目する重要性があると考えられる。

祖父母—孫関係についての研究では、祖父母と孫それぞれの立場からみた関係認識、親密性、結びつきといった心理的側面に着目した研究が多い^{3)~7)}といえる。また、祖父母を研究対象にしたものが多く、孫を対象にした研究では、高校生、大学生といった青年期の孫を対象に、祖父母の性別、年齢、居住環境、接触頻度、その祖父母の父方、母方別、中間世代との関係がどのように関連しているのかという視点からみ

¹⁾名古屋市立大学 看護学部

²⁾元滋賀医科大学 看護学科 (現岐阜県立看護大学)

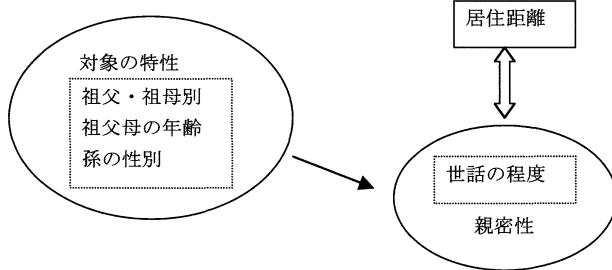


図1. 枠組み

ている^{8)~10)}。

一方、祖父母役割の研究については、祖父母を対象に役割を見ている研究^{11)~13)}、孫側から捉えた研究¹⁴⁾、またその中で孫が祖父母の役割を捉えていくのに発達段階によって異なること、祖父母と孫との居住環境の違いが関連していることが明らかとなっている。以上のように、孫の祖父母に対する役割の捉え方は、居住環境の違いが関連していることより、幼い頃からの祖父母と孫の相互の関わりが何らかの影響を与えていることが推測される。しかし、学童期での祖父母と孫関係が取り上げられている研究はみられず、何が祖父母、孫の関係を規定しているのか明確ではなく、このような視点での研究の必要性が伺える。

そこで、本研究では、学童期にある孫が抱く祖父母の親密性と、祖父・祖母別、祖父母の年齢、孫の性別と居住距離がどのように関連しているのかを明らかにし、高齢者への親密性が生まれる孫の体験を考察することを目的とする。

II. 研究方法

1. 枠組み

研究枠組みを図1に示した。

2. 用語の操作定義

次のように用語を操作定義した。

親密性：孫が祖父母と親しく接し、近いと思う親しみと操作定義した。本研究では、孫が祖父母からそれまでに受けた世話の程度で測定する。

祖父母：孫が最も身近に感じている祖父母とし

た。

3. 対象者

自我の形成される時期にある小学4,5,6年生の202名。そのうち有効回答175名を分析対象とした。

4. 調査期間、方法

調査期間は平成13年6月下旬～同年7月上旬。

調査方法としては、構成的な質問紙によるアンケート調査を行った。言葉の表現方法や項目数の妥当性を確認するため予備調査を行い、本調査に進めた。本調査は、調査依頼時に担当教員と確認のうえ、担当教員からアンケート用紙を配布し実施、後日回収を行った。

5. 倫理的配慮

倫理的配慮として、調査依頼の際に学校責任者に対して研究主旨と無記名であり、結果については統計的処理を行い、本研究以外には用いない旨を書面にて説明した。家族に対しては学校責任者より同様の説明を行った。また、児童自身には、同様の主旨を、担当教員より理解度を考慮した上で説明を行った。

6. 調査内容

1) 対象の学年、性別

2) 対象からみた父方、母方祖父母それぞれの年齢、居住距離、その中でもっとも身近に感じている祖父母を1名選択

以下の項目は、前項目で選択した身近に感じている祖父母を思い浮かべ記載してもらう

3) 親密性については、杉井ら¹⁵⁾の祖父母から受けた世話に対する9項目からなる調査項目を用いた。評価は、4段階リッカート法を用いた。

4) 孫が捉える祖父母の役割については、田畑ら¹⁶⁾¹⁷⁾によって開発された「祖父母・孫関係評価尺度」を用いた。本尺度の信頼性係数(Cronbachの α 係数)は0.68—0.88である。また、本尺度は26項目、4つの下位尺度に分かれている。評価は、3段階で評定し、各尺度毎に合計得点を算出して尺度得点とするものである。

表1. 対象の属性

n = 175			
学年	男子	女子	計
4年生	36 (20.6)	30 (17.1)	66 (37.7)
5年生	24 (13.7)	28 (16.0)	52 (29.7)
6年生	26 (14.9)	31 (17.7)	57 (32.6)
計	86 (49.2)	89 (50.8)	175 (100.0)

表2. 身近に感じている祖父母の父方, 母方別

n = 175			
	祖父	祖母	計
父方	34 (19.4)	52 (29.7)	86 (49.1)
母方	31 (17.7)	58 (33.1)	89 (50.9)
計	65 (37.1)	110 (62.9)	175 (100.0)

表3. 身近に感じている祖父母の年齢

人数 (%) n = 175					
年齢 / 父方・母方	父方		母方		計
	祖父	祖母	祖父	祖母	
50歳代	4 (2.3)	6 (3.4)	2 (1.1)	5 (2.9)	17 (9.7)
60歳代	12 (6.9)	17 (9.7)	16 (9.1)	30 (17.1)	75 (42.9)
70歳代	8 (4.6)	12 (6.9)	7 (4.0)	14 (8.0)	41 (23.4)
80歳代	2 (1.1)	4 (2.3)	1 (0.6)	5 (2.9)	12 (6.9)
不明	8 (4.6)	13 (7.4)	5 (2.9)	4 (2.3)	30 (17.4)
計	34 (19.4)	52 (29.7)	31 (17.7)	58 (33.1)	175 (100.0)

表4. 身近に感じている祖父母との居住距離

人数 (%) n = 175					
居住距離	父方		母方		計
	祖父	祖母	祖父	祖母	
同居	8 (4.8)	14 (8.0)	6 (3.4)	10 (5.7)	38 (21.7)
歩いていける所	4 (2.3)	16 (9.1)	5 (2.9)	10 (5.7)	35 (20.0)
30分~1時間	6 (3.4)	8 (4.6)	3 (1.7)	19 (10.9)	36 (20.6)
1~2時間	2 (1.1)	2 (1.1)	7 (4.0)	5 (2.9)	16 (9.1)
2時間以上	4 (2.3)	8 (4.6)	8 (4.6)	10 (5.7)	30 (17.1)
死別	10 (5.7)	4 (2.3)	2 (1.1)	4 (2.3)	20 (11.4)
計	34 (19.4)	52 (29.7)	31 (17.7)	58 (33.1)	175 (100.0)

7. 分析手順

分析には表計算ソフト EXCEL for Windows および統計パッケージ SPSS for Windows Ver 10.0 を用いて, t 検定, 一元配置分散分析を行った.

III. 結 果

1. 対象の特性

表1に示すように, 4年生全体が66名(37.7%), 5年生全体が52名(29.7%), 6年生全体が57名(32.6%)であった(表1).

1) 身近な祖父母について

孫が4名の祖父母の中から身近な祖父母として1名を選択した. その結果を父方, 母方別に表2に示

した.

次に, 祖父母を父方, 母方に分け, 年齢階層別に集計した結果を表3に示した. 全体としては, 60歳代が最も多く75名(42.9%), 次いで70歳代で41名(23.4%)であった. また, 父方母方別でみると, 父方では, 父方祖父では60歳代が最も多く12名(6.9%), 父方祖母も60歳代で17名(9.7%)であった. それに対して, 母方祖父は, 60歳代が最も多く16名(9.1%), 母方祖母も, 60歳代が最も多く30名(17.1%)であった.

2) 居住距離について

居住距離別の割合を表4に示した. また, 居住距離として「歩いていけるところ」, 「30分~1時間」である場合を「近居」, 「1~2時間」, 「2時間以上」

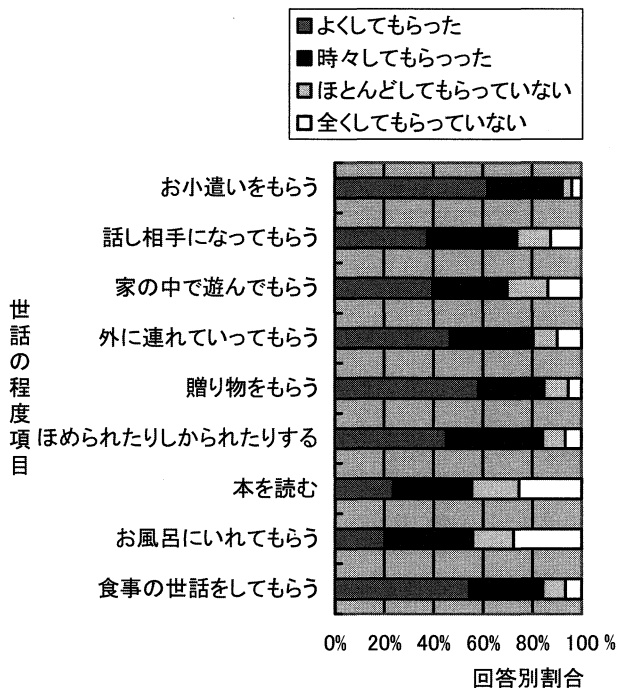


図2. 祖父から受けた世話の程度

を「遠居」とした。居住距離別としては、多い順に「同居」が最も多く38名(21.7%)、次いで「30分～1時間」の近居で36名(20.6%)であった。

2. 世話の程度と孫の性別、祖父母別・祖父母の年齢との関連

1) 世話の程度

祖父母から受けた世話の程度9項目の回答別割合を図2に示した。「よくしてもらった」では、項目のうち「お小遣いをもらった」が62.0%と最も高く、次いで「贈り物もらった」で58.2%であった。

①孫の学年別、性別との比較(表5—1, 5—2)

孫の学年別での比較では、有意差は認められなかった。孫の性別では、「お風呂にいれてもらった」($p < 0.001$)の直接的な世話、「話し相手になってもらった」($p < 0.001$)、「家の中で遊んでもらった」($p < 0.05$)という情緒的な世話では、孫娘の方が孫息子に比べて多く受けているものが有意に高かった。

②祖父母の性別・年齢との比較(表6—1, 6—2)

祖父母の性別では、いずれの項目においても有意差はみられなかった。祖父母の年齢では、「食事の世話をしてくれる」という直接的な世話において70

歳代に比べて50歳代の祖父母が有意に高かった($p < 0.05$)。

3. 世話の程度と居住距離との関連(表7)

世話の程度9項目と祖父母との居住距離との比較では、「贈り物もらった」が、「2時間以上」の遠居が「同居」に比べ有意に高く($p < 0.01$)、また「お小遣いをもらった」は「1～2時間以内」の遠居が「同居」に比べて高かった($p < 0.05$)。また、「家の中で遊んでもらった」が、「同居」が「1～2時間以内」に比べて有意に高かった($p < 0.05$)。

IV. 考 察

1. 孫が身近に感じる祖父母について

身近に感じている祖父母を選択してもらうと、祖父母別では「祖母」と答えた者の割合が父方、母方合わせて6割以上を占めていた。母方祖母を身近に感じるという結果は、「祖母の方が祖父に比べて好感度が高い」という松村ら¹⁸⁾の高校生を対象とした報告と同様であった。孫は孫自身の性別に関係なく祖母に身近さを感じていることがいえる。さらに、中間世代である調査対象である児童の親と祖父母との関係からみた父方、母方別では、父方に比べ母方、さらに母方の祖母を身近に感じている者の割合が高かった。この理由を検討すると、河合ら¹⁹⁾²⁰⁾も述べているように、母方祖母は特に出産後の育児の相談役やベビーシッター役など母親の子育て支援をすることによる孫との直接的な世話が交流の機会となり、身近さを抱くのではないかと考える。

次いで孫が身近さを感じている祖父母との居住距離でみていくと、「同居」もしくは「歩いていける所」「30分～1時間以内」の近居の祖父母に身近さを感じているものが6割以上を占めていた。このことは、藤本ら²¹⁾の生活共同度や家計の共同度が多いことが祖父母との親密度に関連していると報告されていることと同様の結果であると考えられる。しかし、孫が最も身近に感じている母方祖母との居住距離をみていくと同居ではなく近居という居住距離が最も多

表5—1. 世話の程度と孫の学年との関連

世話の項目	4年生 n = 66	5年生 n = 52	6年生 n = 57	F 値
食事の世話をしてくれる	2.24 ± 0.95	2.45 ± 0.82	2.29 ± 0.89	0.558
お風呂にいられてもらった	1.40 ± 1.18	1.64 ± 1.00	1.42 ± 1.10	1.124
本をよんでもらった	1.45 ± 1.20	1.55 ± 1.03	1.61 ± 1.10	0.322
ほめられたりしかられたりした	2.19 ± 0.94	2.10 ± 0.89	2.39 ± 0.74	1.701
贈り物をもらった	2.45 ± 0.86	2.28 ± 0.97	2.39 ± 0.79	1.271
外につれていってもらった	2.15 ± 1.00	2.28 ± 0.81	2.10 ± 1.06	0.482
家の中で遊んでもらった	1.88 ± 1.16	2.05 ± 1.00	1.97 ± 0.98	0.287
話し相手になってもらった	2.00 ± 1.09	2.10 ± 0.93	1.86 ± 0.99	0.631
お小遣いをもらった	2.34 ± 0.90	2.55 ± 0.65	2.64 ± 0.61	2.488

表5—2. 世話の程度と孫の性別との関連

世話の程度項目	男子 n = 86	女子 n = 89	t 値
食事の世話をしてくれる	2.24 ± 0.95	2.39 ± 0.83	- 1.133
お風呂にいられてもらった	1.19 ± 1.09	1.77 ± 1.04	- 3.672 ***
本をよんでもらった	1.44 ± 1.15	1.62 ± 1.07	- 1.054
ほめられたりしかられたりした	2.19 ± 0.86	2.27 ± 0.88	- 0.600
贈り物をもらった	2.42 ± 0.75	2.33 ± 0.98	0.718
外につれていってもらった	2.08 ± 0.93	2.27 ± 1.00	- 1.325
家の中で遊んでもらった	1.77 ± 1.10	2.15 ± 0.97	- 2.498 *
話し相手になってもらった	1.69 ± 1.06	2.28 ± 0.87	- 4.122 ***
お小遣いをもらった	2.60 ± 0.72	2.41 ± 0.77	1.690

* p < 0.05 *** p < 0.001

表6—1. 世話の程度と祖父母の性別との関連

世話の項目	祖父 n = 65	祖母 n = 110	t 値
食事の世話をしてくれる	2.18 ± 0.95	2.38 ± 0.87	- 1.402
お風呂にいられてもらった	1.52 ± 1.06	1.46 ± 1.12	0.345
本をよんでもらった	1.57 ± 1.13	1.53 ± 1.11	0.240
ほめられたりしかられたりした	2.20 ± 0.85	2.25 ± 0.88	- 0.400
贈り物をもらった	2.32 ± 0.83	2.37 ± 0.92	- 0.358
外につれていってもらった	2.35 ± 0.98	2.07 ± 0.96	1.855
家の中で遊んでもらった	1.89 ± 1.03	2.03 ± 1.07	- 0.816
話し相手になってもらった	1.85 ± 0.97	2.05 ± 1.04	- 1.259
お小遣いをもらった	2.52 ± 0.79	2.46 ± 0.74	0.501

表6—2. 世話の程度と祖父母の年齢との関連

世話の項目	50歳代 n = 17	60歳代 n = 75	70歳代 n = 41	80歳代 n = 12	F 値
食事の世話をしてくれる	2.76 ± 0.44	2.40 ± 0.85	2.00 ± 0.96	2.00 ± 1.13	3.747 *
お風呂にいられてもらった	1.26 ± 1.10	1.59 ± 1.13	1.54 ± 1.07	1.25 ± 1.14	0.560
本をよんでもらった	1.88 ± 1.27	1.48 ± 1.03	1.63 ± 1.09	1.25 ± 1.22	1.010
ほめられたりしかられたりした	2.00 ± 1.00	2.32 ± 0.81	2.24 ± 0.80	1.83 ± 1.19	1.510
贈り物をもらった	2.47 ± 0.72	2.36 ± 0.83	2.51 ± 0.84	2.17 ± 1.19	0.624
外につれていってもらった	2.29 ± 0.99	2.28 ± 0.94	2.12 ± 0.87	1.92 ± 1.16	0.685
家の中で遊んでもらった	1.82 ± 1.33	1.96 ± 1.05	2.12 ± 0.87	1.83 ± 1.19	0.463
話し相手になってもらった	2.29 ± 1.05	2.12 ± 0.90	1.73 ± 1.03	2.08 ± 1.16	1.914
お小遣いをもらった	2.59 ± 0.51	2.44 ± 0.79	2.56 ± 0.78	2.42 ± 1.51	0.377

* p < 0.05

表7. 世話の程度と居住距離との関連

世話の項目	同居 n = 36	歩いていける所 n = 35	30分~1時間 以内 n = 36	1~2時間以内 n = 17	2時間以上 n = 31	死別 n = 20	F 値
食事の世話をしてくれる	2.42 ± 0.89	2.23 ± 0.94	2.44 ± 0.69	2.44 ± 0.89	2.23 ± 0.90	2.00 ± 1.17	0.911
お風呂にいらしてもらった	1.76 ± 1.13	1.63 ± 0.88	1.36 ± 1.13	1.31 ± 1.20	1.23 ± 1.17	1.45 ± 1.15	1.101
本を読んでもらった	1.76 ± 1.05	1.31 ± 1.08	1.53 ± 1.13	1.88 ± 1.02	1.40 ± 1.13	1.50 ± 1.28	0.984
誉められたり叱られたりする	2.32 ± 0.90	2.26 ± 0.82	2.17 ± 0.97	2.13 ± 0.73	2.27 ± 0.43	2.20 ± 1.00	0.176
贈り物をもたらした	2.11 ± 0.90	2.51 ± 0.84	2.17 ± 1.02	2.56 ± 0.98	2.87 ± 0.99	1.95 ± 1.20	4.620 **
外につれていってもらった	2.32 ± 0.93	2.23 ± 0.96	2.25 ± 1.02	2.19 ± 1.24	2.10 ± 1.07	1.80 ± 1.12	0.845
家の中で遊んでもらった	2.13 ± 0.93	2.20 ± 1.00	2.08 ± 1.00	1.25 ± 1.06	1.17 ± 1.14	2.00 ± 0.97	2.399 *
話し相手になってもらった	2.03 ± 0.91	1.94 ± 0.66	1.97 ± 0.77	2.25 ± 0.40	1.77 ± 0.53	2.00 ± 0.91	0.510
お小遣いをもたらした	2.34 ± 0.91	2.49 ± 0.66	2.53 ± 0.77	2.81 ± 0.40	2.70 ± 0.53	2.10 ± 0.91	2.516 *

* p < 0.05 ** p < 0.01

く、結果は母方祖母の場合には、身近に感じる要因として居住距離よりも、前に述べた女性としての優位性ということが強く影響していると考えられる。

2. 親密性を生み出す祖父母、孫側からの要因

祖父母側から検討した結果、祖父母の年齢では、「食事の世話をしてもらった」という直接的な世話が、50歳代が70、80歳代の祖父母に比べて有意に高かったことは、50歳代の祖父母は直接的な世話ができる健康があり、関わりがもちやすいと考える。今回、孫側からの調査であり、祖父母の心理的状态は把握できていないが子育て支援に関して主観的幸福感の後期より前期高齢者の方が高い²²⁾ことが明らかにされているように祖父母側の心理的側面にもプラスに影響していると考えられる。

祖父母との居住距離では、「贈り物をもたらす」「お小遣いをもたらす」という物のやりとりといった道具的な世話による親密性は、同居に比べて遠居の方が有意に高いこと、逆に「家で遊んでもらう」という情緒的な世話からの親密性は、遠居に比べて同居の方が有意に高いことが明らかとなった。居住距離の近さによる交流は、情緒的な世話が行われ、祖父母と孫の相互の行為やコミュニケーションを要し、そのような親密性が生まれやすいのではないかと考える。

また、孫の性別において、孫娘の方が孫息子に比べて直接的な世話、情緒的な世話が有意に高くなっていた。つまり、孫娘は孫息子に比べて祖父母との相互の行為やコミュニケーションをとりやすい遊びや話

を通じて親密性を感じていることがいえた。

V. 結 論

今回の研究より以下の結論を得た。

1. 孫が身近に感じている祖父母は「祖父」に比べて「祖母」、父方より母方の祖父母を選択しているように「女性」の優位性がみられ、居住距離では、遠居に比べて同居、近居である祖父母を身近に感じていた。

2. 祖父母の性別、年齢、孫の性別では前期高齢期の祖父母は直接的な世話からの親密性をもちやすく、孫の性別では女子の方が男子に比べて「家の中で遊んでもらった」「話し相手になってもらった」という情緒的な世話からの親密性を持ちやすいことが伺えた。

3. 世話の程度と祖父母との居住距離では、「同居」「近居」であるものは情緒的な世話からの親密性をもちやすく、「遠居」であるものは、道具的な世話からの親密性を持ちやすいという違いが明らかとなった。

VI. 今後の課題

今回の調査では、対象を4、5、6年生としたため、表現能力を考慮してアンケート調査を行った。今後、祖父母と孫の親密性がどのような体験によって生ま

れるか明らかにする必要がある。

謝 辞

稿を終えるにあたり、本研究を快く受け入れて下さいました小学校の校長先生はじめ諸先生方、また協力して下さいました児童の皆様、深く感謝いたします。

〔 受付 '03.12.27 〕
〔 採用 '05.1.11 〕

文 献

- 1) 角尾美果, 草野篤子: 高齢者をめぐるストレスと世代間交流のすすめ, 老年精神医学雑誌, 11 (12): 1372—1379, 2000
- 2) 岡 澄子, 上田礼子, 吉川千恵子, 他: 3世代同居家族の意識と行動—性役割観を中心—, 保健の科学, 39 (12): 892—896, 1997
- 3) 河合千恵子: 孫世代との関係の行方, 現代のエスプリ別冊, 53—66, 1998
- 4) Thomas, J.L.: Gender and Perceptions of Grandparenthood, International J. Aging and Human Development, 29 (4): 269—282, 1989
- 5) 宮中文字, 松岡知子, 西田茂樹, 他: 中年女性(祖母)の子育て参加の実態と心理的健康の関連について(第1報), 社会老年科学, 17 (12): 21—29, 1995
- 6) 杉井潤子, 堀 智晴, 泊 祐子, 他: 祖母の子育てに関する研究—主観的幸福感との関連において—, 大阪市立大学生活科学部紀要, 42: 89—100, 1997
- 7) 泊 祐子: 高齢者のQOLに及ぼす孫との関係に関する研究, 財団法人笹川医学研究財団平成7年研究業績年報, 175—179, 1995
- 8) 松村孝雄, 中野いく子: 老人の家庭内役割—孫のしつけの実態とその機能に関する研究, 研究成果報告書, 1985
- 9) Hoffman, E.: Young Adults' Relations with Their Grandparents: An Exploratory Study, J. Aging and Human Development, 10 (3): 299—310, 1979
- 10) Matthews, S.H. & Sprey, J.: Adolescents' Relationships with Grandparents: An Empirical Contribution to Conceptual Clarification, J. of Gerontology, 40 (5): 621—626, 1985
- 11) Newgarden, B.L. & Weinstein, K.K.: The Changing American Grandparent, J. of Marriage and the Family, 26: 199—204, 1964
- 12) Robertosn, J.F.: Grandmotherhood: A Study of Role Conceptions, J. of Marriage and the Family, 39: 165—174, 1977
- 13) Kivnik, H.Q.: Grandparenthood; An Overview of Meaning and Mental Health, The Gerontologist, 22: 59—66, 1982
- 14) Kahana, B. & Kahana, E.: Grandparenthood from the Perspectives of the Developing Grandchild, Developmental Psychology, 3 (1): 98—105, 1970
- 15) 前掲書6)
- 16) 田畑 治, 星野和実, 坪井さとみ, 他: 青年期における孫・祖父母関係評価尺度の作成, 心理学研究, 67 (5): 375—380, 1996
- 17) 片山美由紀, 今野裕之: 人間と社会のつながりをとらえる<対人関係・価値観>, (吉田富二雄編集・堀 洋道監修), 心理測定尺度集II, 159—165, サイエンス社, 2000
- 18) 前掲書8)
- 19) 河合千恵子, 下仲順子, 中里克治, 他: 孫の誕生とその心理的影響, 老年社会科学, 20 (1): 32—41, 1998
- 20) 前掲書3)
- 21) 藤本信子, 上子武次, 増田光吉編: 祖父母・孫の関係, 三世大家族—世代間関係の実証的研究, 175—195, 垣内出版, 1976
- 22) 前田大作, 野口裕二, 玉野和志: 高齢者の主観的幸福感の構造と要因, 社会老年学, 30: 3—16, 1989

Factors Related to the Intimacy that School-Age Children Experience with Their Grandparents

Yuki Miyachi¹⁾, Yuko Tomari²⁾¹⁾Nagoya City University School of Nursing²⁾Former Shiga University of Medical Science (Present Gifu College of Nursing)

Key words : degree of care provided by grandparents to grandchildren ; grandchildren of school age ; grandparents ; distance between residences

In order to evaluate the origins of intimacy toward elderly people, the present study aimed to investigate relationships between the intimacy that school-age children have with their grandparents and the following : gender of the grandparent ; age of the grandparent ; gender of the grandchild ; and the distance between the residences. We conducted a questionnaire survey using a structured questionnaire administered to a total of 202 elementary students in the fourth, fifth, and sixth grades, and obtained 175 usable responses. The questionnaire included the following : grade of the participant, gender of the participant, ages of the paternal and maternal grandparents according to the participant, distance between residences, the grandparent with which the participant felt more intimate, and a 9-item scale assessing the care provided by the grandparents, developed by Sugii et al.

The following results were obtained.

1. More participants selected "grandmother" as the closer grandparent in response to the question asking the gender of the grandparent with whom the participant feels more intimate. In addition, participants more often selected maternal grandparents in response to the question asking about father's or mother's side indicating a preference for females.

2. Regarding the distance between residences, more participants indicated experiencing intimacy with grandparents who lived together with or close to the participants, as compared with grandparents who lived far away. This suggests a tendency for proximity to lead to greater intimacy.

3. We performed an analysis of the gender and age of the grandparent, the age of the grandchild, and the degree of the care provided by grandparents. This demonstrated that grandparents in their 50 s provided significantly greater direct care, such as "preparing meals," as compared with grandparents in their 70 s.

4. An analysis of the gender of the participants showed that girls received significantly greater emotional care, such as "playing together at home," and "talking," as compared with boys.

5. An analysis comparing the 9 items of care with the distance between residences showed that grandparents who live far away provided significantly more indirect care, such as "giving a gift to the grandchild," and "giving pocket money to the grandchild," as compared with grandparents who lived closer. Moreover, grandparents who lived with the participant provided significantly greater emotional care, such as "playing together," as compared with grandparents who lived far away.
